

## 平成30～令和4(2018～2022)年度 取組み内容及び評価指標

北九州市立美術館

分類	項目	5カ年計画(5カ年の取組み)	令和2年度の取組み	評価指標
1 作品 ～資料収集・環境管理・保存～	(1) 収集活動の継続	開館以来の収集方針や所蔵内容を踏襲しながら、持続可能な収集活動を目指す。収集対象は、下記の分野に重点を置く。 ○現代の多様性を示す優れた作品 ○地域の美術史を構築する上で欠かせない作品 ○近現代美術史の展開をたどる既存コレクションの充実・補完	①既存コレクションを充実・補完するため、所蔵作家の調査に基づいた作品・関連資料を収集する。 ②各企画展や「guest room」など、当館事業に関わる作家の調査に基づいた作品・関連資料を収集する。	○美術作品の収集内容
	(2) 作品修復、作品保管環境の整備	所蔵作品・資料の管理に必要な保管環境を整備し、必要に応じて作品修復を行う。	①緊急性の高い作品から順次修復を行う。 ②日常的に収蔵庫内の点検・清掃を行い、作品と保管環境の安全を確認する。	○修復作品の内容・選定理由 ○収蔵庫の環境整備状況
	(3) 美術資料・図書の一括管理	当館所蔵の作品及び図書データベースを整備し、開館50周年となる2024年の一般公開を目指す。	①作品データベースの資料作成、精査を行う。 ②図書データベースの資料作成、精査を行う。 ③作品・図書をよりよく運用するための整理を行う。	○データベースの整備と公開に向けた取組みの状況
2 公開 ～調査研究・展覧会～	(1) 新鋭作家の継続的な紹介と評価	企画展やguest roomを通じ、新収蔵や研究発表を見据えた新鋭作家の調査を行う。	①コレクション展における特集展示「guest room」第5回展、自主企画展「アートのなかのSF展」(東アジア文化都市北九州関連事業)を開催する。	○作家についての調査内容
	(2) 所蔵作家のアーカイブ整備、研究論文・口頭発表	所蔵作家に関する対面調査、資料収集を蓄積し、研究論文、口頭発表等を行う。	①自主企画展「アートの中のSF展」(東アジア文化都市北九州関連事業)「guest room」第5回展の開催にあたり、論文公開や口頭発表を行う。	○研究成果の件数・内容
	(3) 特色ある展覧会(コレクション展・自主企画展)の実現	調査研究に基づいたテーマ性の豊かなコレクション展や自主企画展を開催する。	①テーマの異なる3つのコレクション展(シュルレアリスム、現代アート・セレクション、野見山暁治)を開催する。 ②「アートの中のSF展」(東アジア文化都市2020北九州関連事業)で現代作家を紹介する自主企画展を開催する。	○企画の内容
	(4) 他館や他機関と共同企画の実施	他館、他機関と協同し、連携企画展や共同調査を行う。	①「GIGA・MANGA」展(東アジア文化都市2020北九州関連事業)において、京都国際漫画ミュージアム、すみだ北斎美術館、東北歴史博物館と共同で展覧会を企画する。 ②「アートの中のSF展」(東アジア文化都市2020北九州関連事業)において、北九州市漫画ミュージアム、北九州市立文学館とテーマを協同し同時開催する。	○連携の件数・内容
3 交流 ～教育普及・地域交流～	(1) 学校と連携した学習プログラムの実施	教育現場や教育委員会と連携し、小中学生等が美術に触れ、楽しむ機会を広げる事業を実施する。	①引き続き全市立小学校3年生を対象に「ミュージアム・ツアー」を実施し、対話型鑑賞を実践する。また、昨年同様ののちのたび博物館と連携したツアーも実施する。 ②(新規)ツアーに参加する教員に対する美術館マナー、対話型鑑賞についての研修を実施する。 ③(新規)特別支援学校児童の受け入れ方法について検討を行う。	○参加校の満足度 ○実施状況
	(2) 特色あるワークショップ・講演会の実現	子どもから大人まで幅広い年齢層を対象にしたワークショップ、講演会、ギャラリートーク等を実施する。 また、複数年にわたり継続した市民参加型のアート・プロジェクトを実施する。	①各展覧会と連動したワークショップを行う。 ②各展覧会で講演会やギャラリートークを行う。 ③長期ワークショップ「ぬいかげの植物園計画室」を実施する。	○参加者の満足度
	(3) ボランティア組織の充実	現代の社会状況に対応した、独自の自立型のボランティア制度を構築する。	①プロジェクト班、鑑賞サポート班、美術情報班の3班に分かれたボランティア活動を支援する。 ②(新規)ボランティアによる一般来館者向け鑑賞プログラムを実施する。 ③ボランティア活動を充実させるための研修・講義を行う。	○ボランティア制度の運営状況
	(4) 他館や他機関との連携	他館、他機関との連携を促進し、同時に連携の内容を工夫する。	①北九州芸術劇場と連携し、コレクション展をテーマとした公演「モネ、逆さまの睡蓮」を行う。	○参加者の満足度 ○実施状況
4 広報 ～利用促進のための情報発信～	(1) 現代社会に対応したマーケティング、広報戦略	展覧会等の傾向や予想される観客層などを分析し、SNS等も活用した効果的な広報活動を行う。 また、外国人向けの広報も充実させる。	①美術館に対する市民のニーズを把握するため、引き続きアンケート方法を検討する。 ②(新規)美術館公式SNSの開設、SEO対策(検索エンジン対策)について検討する。 ③(新規)市民センターの生涯学習事業活用へのPRを行う。	○アンケートの実施方法 ○公式SNSの検討状況 ○市民センターの活用状況
	(2) 他館や他機関との連携	来館促進のための連携先の確保と、連携の内容を工夫する。 また、美術館友の会の活用を図る。	①他館と連携した割引特典等の企画を実施する。 ②美術館友の会会報誌による展覧会情報等の発信に努める。 ③(新規)東アジア文化都市2020北九州と連携した広報を行い、来館促進を図る。	○連携の件数・内容
5 環境 ～快適なアメニティ空間の演出～	(1) ミュージアム機能・設備の強化	美術館内外の環境について、館の安全確保と適正管理に努める。 また、ホスピタリティマインドの向上に努め、市民に開かれた美術館を目指す。 加えて、老朽化が進んでいるアネックス棟の整備計画の検討を行う。	①(新規)本館搬入エレベータ更新のための実施設計に着手する。 ②アネックス棟の整備計画を検討し、予算の確保に努める。 ③警備、清掃、受付・監視等の現場会議を行う。 ④老朽化に伴う事故を防止するため、建物(建築・設備・消防等)点検を徹底する。 ⑤来館者サービス向上のためカード決済の導入について検討する。	○実施状況